

吾妻山の火山活動解説資料（平成 28 年 11 月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はありませんでした。
大穴火口付近での熱活動は継続していますので、今後の火山活動の推移に注意してください。
山に入る際には、火山ガスに注意してください。また、大穴火口付近で噴出現象が突発的に発生する可能性があることに留意してください。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図 1、図 2-①④）

上野寺に設置している遠望カメラによる観測では、大穴火口（一切経山南側山腹）の噴気の高さは 100m 以下で経過しました。

・ 地震や微動の発生状況（図 2-②③⑤～⑧、図 3）

火山性地震は少ない状態で経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図 4～6）

浄土平観測点の傾斜計¹⁾では、2015 年 6 月頃まで西南西側（火口方向側）上がりの変動で推移していましたが、2015 年 9 月頃から西側下がり傾向となっています。

GNSS²⁾連続観測では、2014 年秋以降に一切経山付近の膨張を示す緩やかな変化がみられていましたが、2015 年 7 月頃から停滞または収縮の傾向となっています。

1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。

2) GNSSとはGlobal Navigation Satellite Systemsの略称で、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示します。



図 1 吾妻山 大穴火口周辺の噴気の状況（11 月 2 日）

- ・ 左図：福島市上野寺（大穴火口から東北東約 14km）に設置している遠望カメラの映像です。
- ・ 右図：大穴火口の東南東約 500m に設置されている浄土平火口カメラ（東北地方整備局）の映像（16 時 27 分頃）です。
- ・ 実線赤丸で囲んだ部分が大穴火口北西側火口壁の噴気で、この時観測された噴気の高さは 100m です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 28 年 12 月分）は平成 29 年 1 月 12 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、東北大学のデータを利用して作成しています。本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

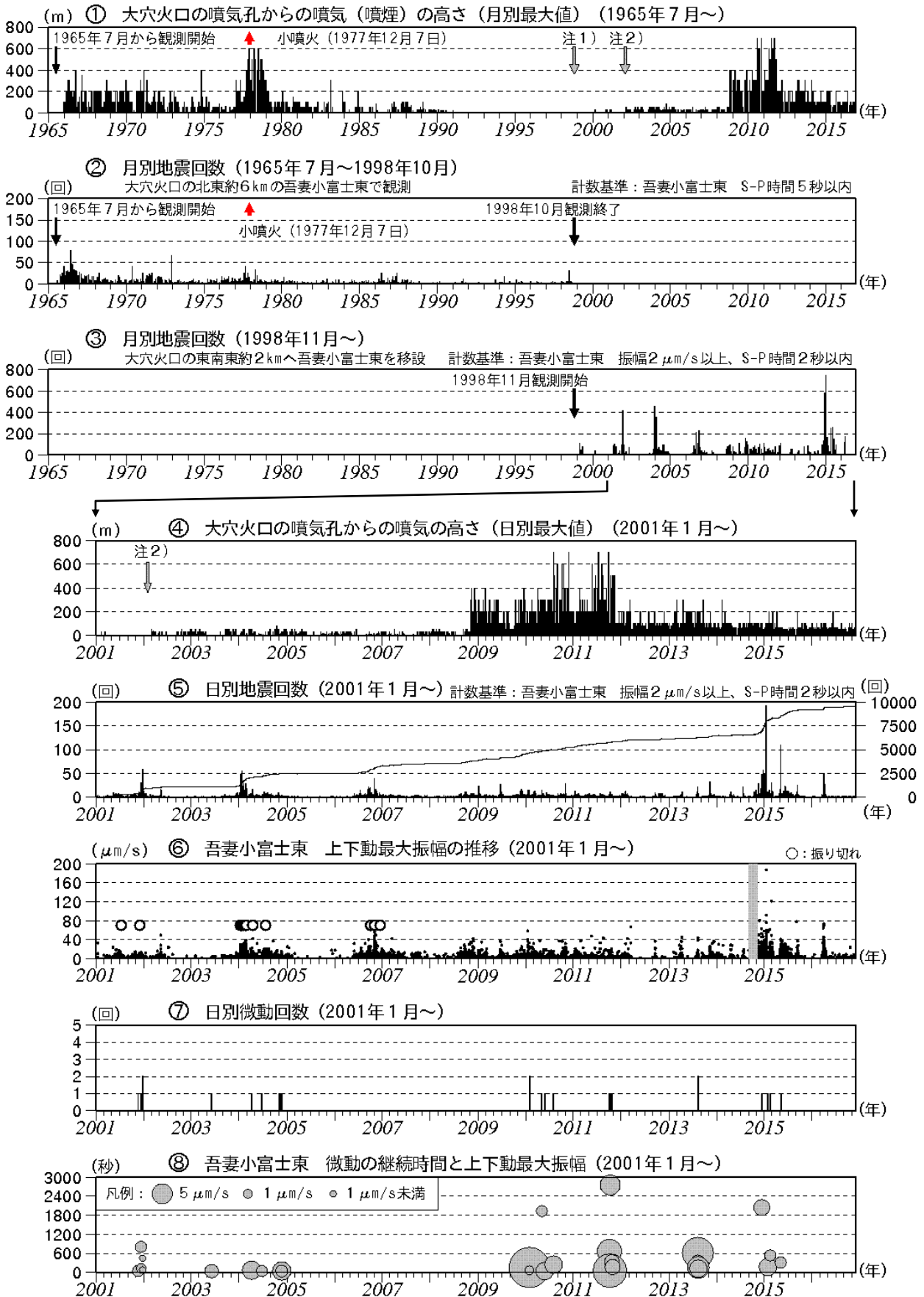
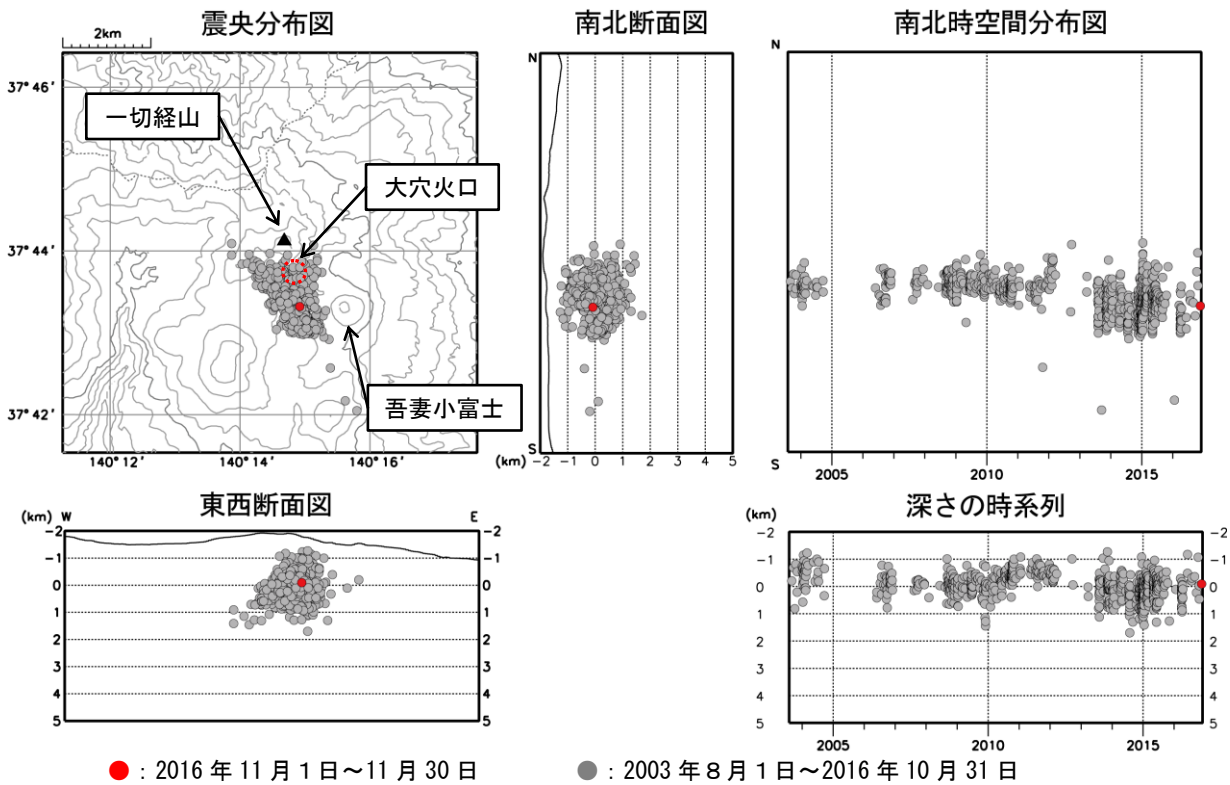


図2 吾妻山 火山活動経過図(1965年7月~2016年11月)

- ・①注1) 1998年以前は福島地方気象台(大穴火口の東北東約20km)からの目視観測で、1998年からは遠望カメラ(大穴火口の東北東約14km)による観測です。
- ・①④注2) 2002年2月以前は定時(09時、15時)及び随時観測による高さ、2002年3月以後は24時間観測による高さです。
- ・⑥の灰色部分は欠測を表しています。
- ・⑥2012年以前は観測機器の設定により、振り切れ値が70 $\mu\text{m/s}$ となっています。



● : 2016 年 11 月 1 日～11 月 30 日 ● : 2003 年 8 月 1 日～2016 年 10 月 31 日

図 3 吾妻山 地震活動 (2003 年 8 月～2016 年 11 月)

・ 2012 年 12 月 1 日以降、観測点の移設更新の影響により、震源がやや南側に分布する傾向がみられます。

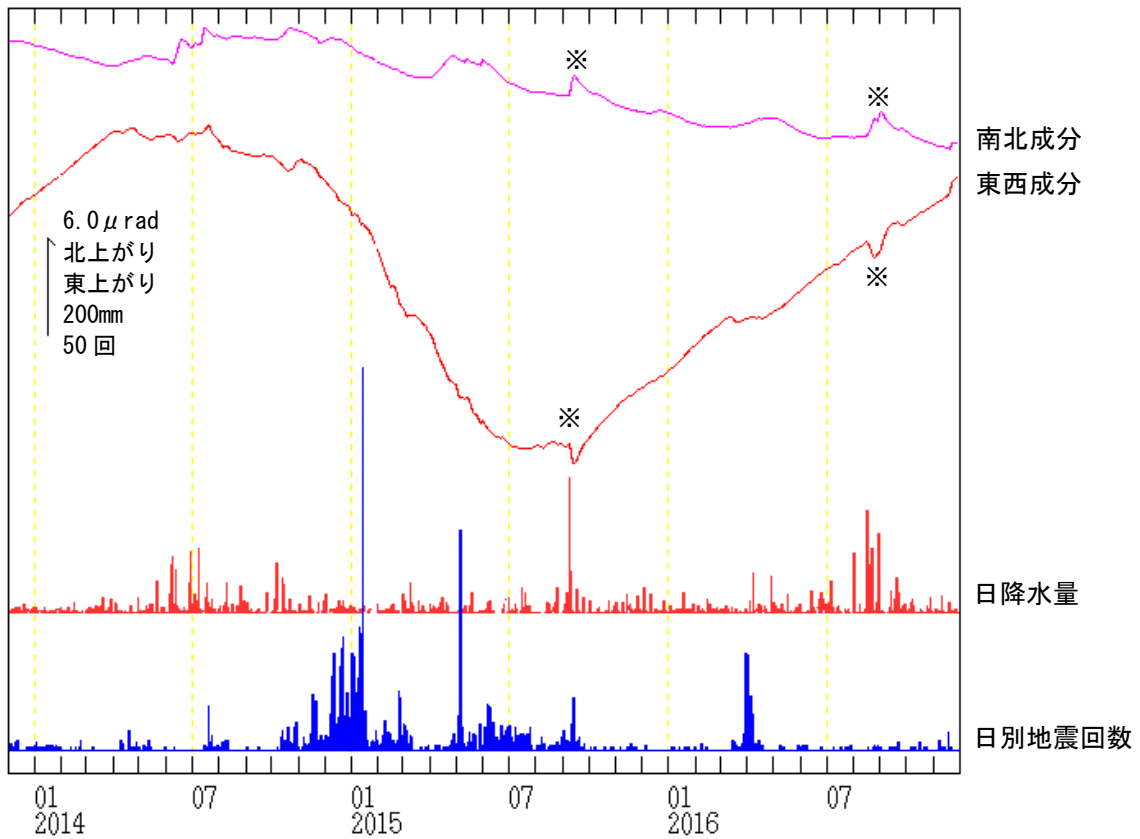


図 4 吾妻山 浄土平観測点での傾斜変動

(2013 年 12 月～2016 年 11 月、時間値、潮汐補正あり)

- ・ 2015 年 6 月頃までみられていた西南西側 (火口方向側) 上がりの変動は、2015 年 7 月頃から停滞し、2015 年 9 月頃から西側下がり傾向となっています。
 - ・ $1 \mu\text{rad}$ (マイクロラジアン) は、1 km 先が 1 mm 上下するような変化量です。
 - ・ 日別降水量は鷺倉地域気象観測所で観測された日降水量です。
- ※は、降水による変動です。

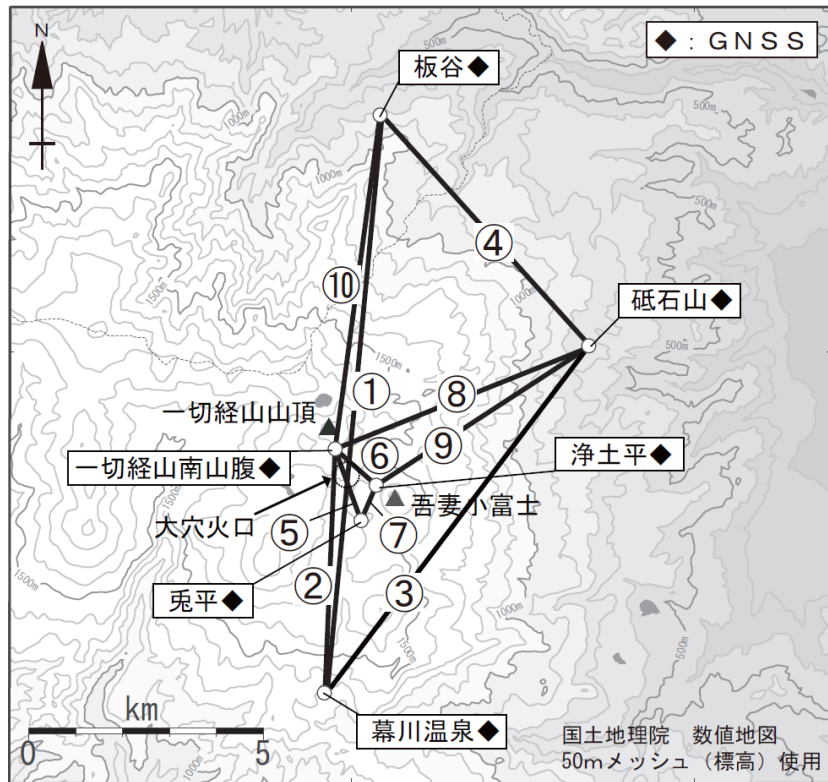


図5 吾妻山 GNSS 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁の観測点位置を示しています。

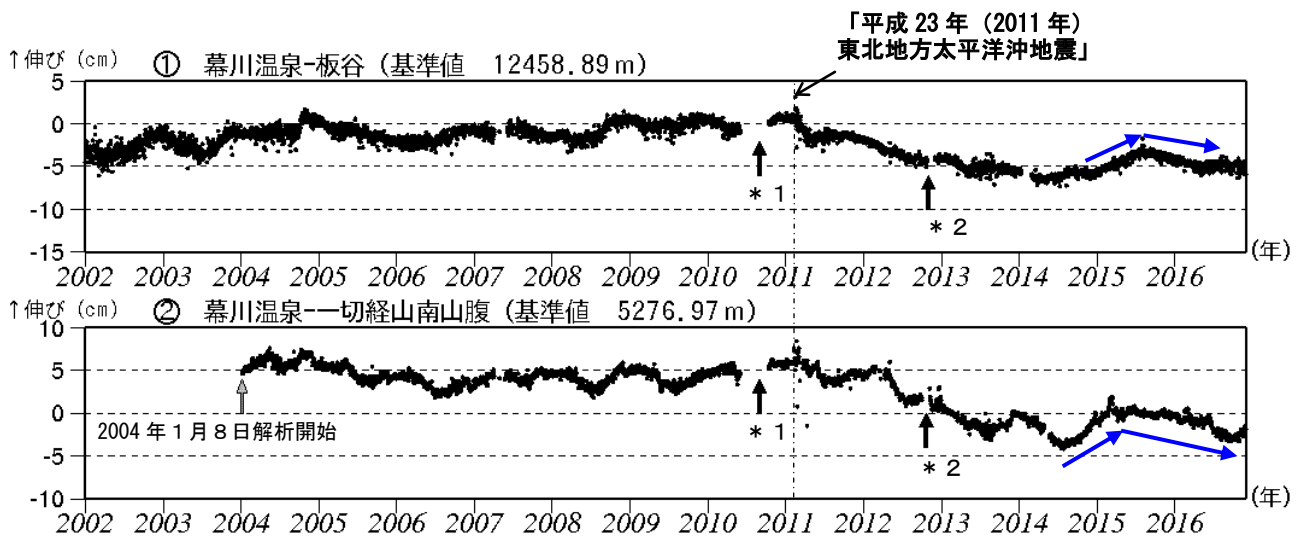


図6-1 吾妻山 GNSS 基線長変化図 (2002 年 1 月～2016 年 11 月)

- ・ 青矢印は基線長の変化傾向を示します。2015 年 7 月頃まで一切経山付近の膨張を示す緩やかな変化がみられていましたが、その後停滞または収縮の傾向となっています。
- ・ 2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。
- ・ 「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・ ①～②は図5の GNSS 基線①～②に対応しています。
- ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・ 各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。
 - * 1 : 幕川温泉観測点の機器を更新しました。
 - * 2 : 板谷観測点と一切経山南山腹観測点の機器を更新しました。

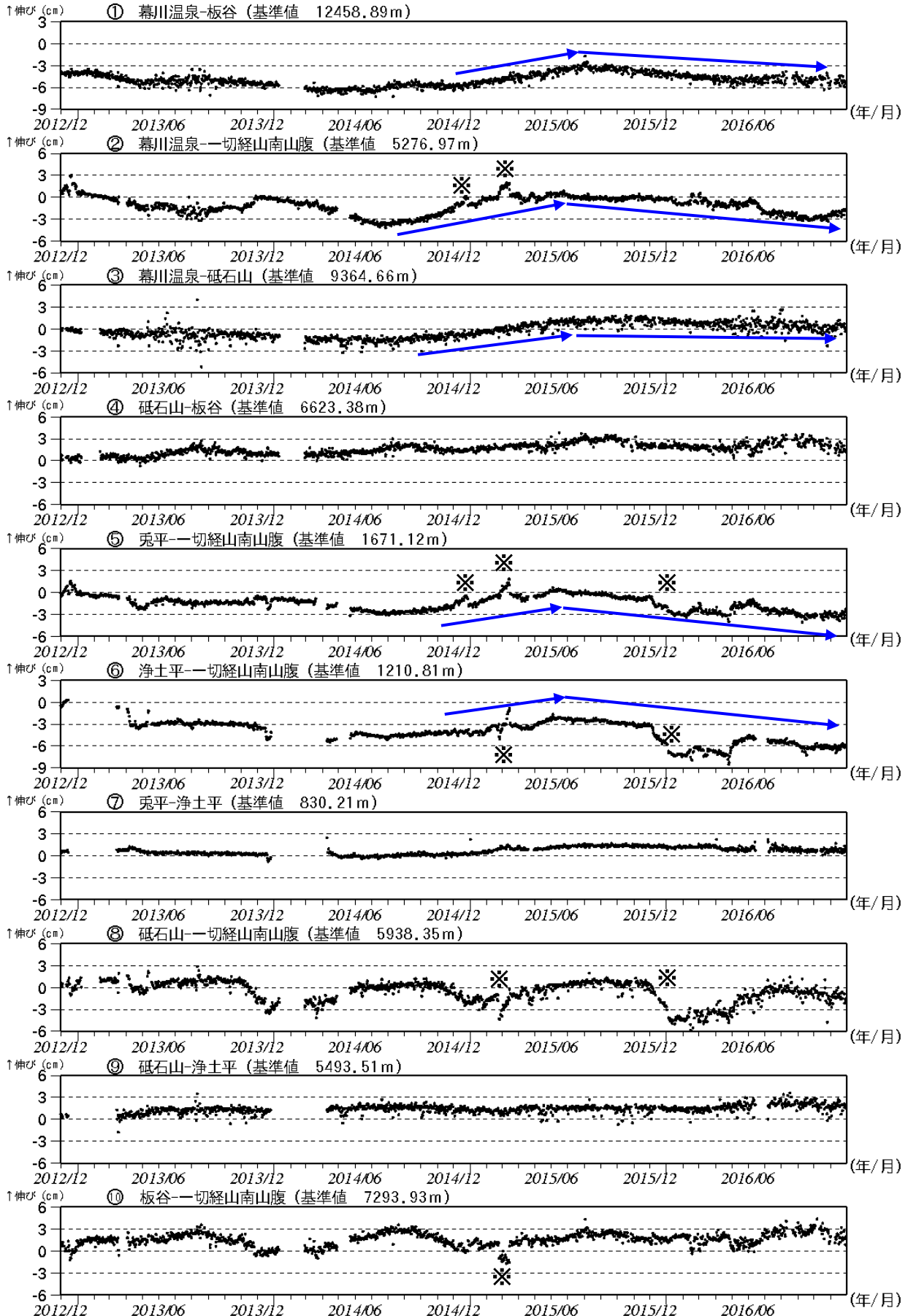


図 6-2 吾妻山 GNSS 基線長変化図 (2012 年 12 月～2016 年 11 月)

- ・青矢印は基線長の変化傾向を示します。一部の観測点で、2015 年 7 月頃まで一切経山付近の膨張を示す緩やかな変化がみられていましたが、その後停滞または収縮の傾向となっています。
 - ・①～⑩は図 5 の GNSS 基線①～⑩に対応しています。 ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
 - ・各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。
- ※冬期には、原因不明の変化がみられることがあります。凍上やアンテナへの着雪等の可能性があります。

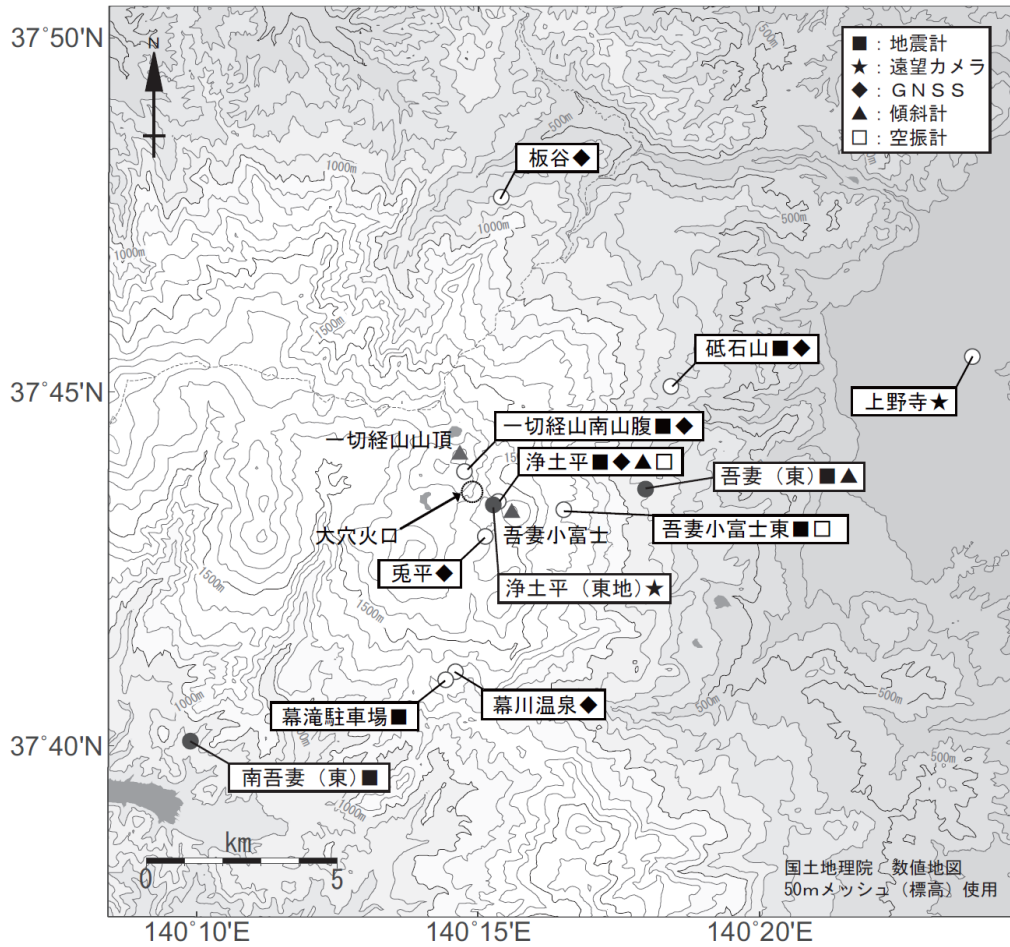


図7 吾妻山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(東) : 東北大学 (東地) : 東北地方整備局